

Press Release

2023年2月9日

温室効果ガス排出量を 2050 年までに「ネットゼロ」に

アステラス製薬株式会社(本社:東京、代表取締役社長 CEO:安川 健司、以下「アステラス製薬」)は、事業を通じて排出される温室効果ガス(GHG)を、2050 年までに実質ゼロにすることを目指す方針を決定しました。

気候変動対策への長期のコミットメントとして、スコープ 1+2 およびスコープ 3^{*1} のそれぞれ、2015 年を基準に 2050 年までに GHG 排出量 90%の削減と 10%の残余排出量の中和化^{*2} によるネットゼロの達成を目指すことを決めました。なお、2030 年までの GHG 排出量削減目標について SBT(Science Based Targets)イニシアチブから承認を取得しています。

今回の方針決定にあたり、代表取締役社長 CEO の安川健司は、「アステラス製薬は、経営計画 2021 で『サステナビリティ向上の取り組みを強化』を戦略目標の一つに掲げており、気候変動対策に優先的に取り組んでいます。社会の一員であるアステラス製薬も、持続可能な社会の実現に向け、より一層 GHG 排出量の削減に向けた取り組みを進めていきます」と述べています。

アステラス製薬の環境(気候変動対策)に対する具体的な取り組みについては、こちらをご覧ください。

アステラス製薬は、ESG[環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)]を考慮しつつ社会および当社の持続可能性をともに向上させていくという基本方針のもと、サステナビリティ活動の一層の推進と情報開示の拡充に引き続き取り組んでいきます。

以上

*1 スコープ:温室効果ガスの排出量の算定範囲

スコープ 1:自社で使用した燃料に伴う温室効果ガスの直接排出

スコープ 2:購入した電力の使用に伴う温室効果ガスの間接排出

スコープ 3:原材料調達や製品使用など、サプライチェーンでの温室効果ガスの排出

*2 中和化:大気中の炭素を除去し、将来にわたって貯蔵することで、GHG 排出の残余量の影響を相殺するために企業が行う対策。

アステラス製薬株式会社について

アステラス製薬は、世界 70 カ国以上で事業活動を展開している製薬企業です。最先端のバイオロジーやモダリティ／テクノロジーの組み合わせを駆使し、アンメットメディカルニーズの高い疾患に対する革新的な医薬品の創出に取り組んでいます(Focus Area アプローチ)。さらに、医療用医薬品(Rx)事業で培った強みをベースに、最先端の医療技術と異分野のパートナーの技術を融合した製品やサービス(Rx+®)の創出にも挑戦しています。アステラス製薬は、変化する医療の最先端に立ち、科学の進歩を患者さんの「価値」に変えていきます。アステラス製薬の詳細については、(<https://www.astellas.com/jp/>)をご覧ください。

注意事項

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

お問い合わせ先:

アステラス製薬株式会社
コーポレートアドボカシー&リレーションズ部
TEL: 03-3244-3201